

知って役立つ発達心理学

渡辺弥生

Yayoi Watanabe
(法政大学教授)

第②回「葛藤」解決の発達心理学

道徳科の授業では、対人関係の問題が扱われることが少なくありません。実際、小学校中学年以降の友達関係はたいへん複雑で、子どもたちには大きなストレスとなっています。

教員が、リアルな子どもたちの「葛藤」をどれだけ想像できるかということと、こうした悩みや葛藤を解決するための見通しをもてる子どもたちの時間的展望の能力の発達を知ることが、子どもの心に寄り添えるかどうかの鍵になります。

葛藤のエスカレーターを経験させよう

「葛藤のエスカレーター」というワークをご紹介します。仲の良い二人が、ある出来事をきっかけに対立してしまうという話をなぞっていくワークです。詳しい内容はウェブサイト上の資料をご参照ください*。

このワークでは、子どもたちに、①二人が絶交に至るまでのシナリオ、②二人が絶交から仲直りに至るまでのシナリオ を考えさせます。

葛藤は、大切な友達を失いたくないことが原因だった！

ワークに沿って子どもたちに自由に葛藤の場면을想像させると、絶交に至るまで、ものすごい言い合いを

書く子もいれば、言葉少なに絶交に至る子もいます。ただ、驚くことに、それなりに「絶交」までの言い合いを想像しても、どちらかが謝ると、「私もごめんね」とあれよあれよと大の仲良しに戻ることが大半です。

もっと驚くのは、リアルな生活では、こうした心の声や言い合いを我慢して、ほとんど葛藤を見せないことです。実際には、友達との関係を自然消滅させることを選ぶ生徒が少なくありません。傷つきたくない、傷つけないという気持ちが強いためでしょう。

言い合うのは他人を、そして自分自身を理解するためであり、事の発端は「友達でいたい」という情熱であることに気づかせましょう。葛藤しても問題は解決できること、そして、争いやいざこざの原因はいろいろあっても、大事なものは、お互い友達でいたかったこと・これからも友達でいたいことなのです。この「葛藤を解決する力」と「時間的な展望の力」とを身につけること、仲良くなる体験を重ねさせることが、授業でも、実生活でも重要なのです。

渡辺弥生 ●わたなべ やよい

発達心理学、教育学博士。法政大学文学部教授。著書に『感情の正体——発達心理学で気持ちをマネジメントする』（筑摩書房）、『子どもの「10歳の壁」とは何か？ 乗り越えるための発達心理学』（光文社）など。監修に『まんがでわかる発達心理学』（講談社）など。光村図書小・中学校『道徳』教科書編集委員。

※ウェブサイトはこちら

